

寸言

帝人株式会社
帝人グループ執行役員
炭素繊維事業本部長
乾 秀桂



創立100周年「これまでとこれから」

このたび、弊社は伝統ある日本航空宇宙工業会に入会させて頂くことになりました。日本航空宇宙工業会へは弊社のグループ会社で炭素繊維事業の中核会社であった東邦テナックス株式会社が1979年に入会以降、40年近くに亘りお世話になって参りましたが、本年4月1日に弊社と東邦テナックス株式会社が会社統合をしたことから、改めて帝人株式会社として入会させて頂くことになったものがあります。入会にあたっては関係者の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、弊社で御座いますが、1918年に国内初の国産レーヨンメーカーとして、帝国人造絹糸株式を設立以来、今年で創立100周年を迎えるに至りました。この100年を振り返ると、それは決して平たんな道のりではなく、一時代を築いたレーヨン、ポリエステルという合成繊維事業から炭素繊維、アラミド繊維といった高機能繊維事業や化成製品事業への変遷、多角化経営による幾多の試行錯誤を経て生き残ったヘルスケア事業など、この100年は絶え間ない事業変革の歴史そのものであったとも言えます。ただ、当たり前のことですが、創立100周年はゴールではなく、あくまでこれからの100年、更にはその先の未来に向けたスタートであります。

帝人グループでは、本年が2年目の中期経営計画「ALWAYS EVOLVING」において、マテリアル事業領域とヘルスケア事業領域を2本の柱とし、成長戦略および発展戦略を強力に推進しています。そして、マテリアル事業領域においては、世界的な環境規制の強化に

伴う低燃費化の要請に応えるため、「軽くて強い」高機能素材の拡大に取り組んでおり、航空機分野や自動車分野への展開に注力しています。炭素繊維事業の中核会社であった東邦テナックスの統合はこうした背景をうけて、グループ内の情報・技術の共有や人財の最適配置など、総合力の発揮により、さらなる企業価値の増大を図るために実施されたものであります。

さて、話を「航空宇宙」へ向けますと、現在の航空旅客需要は今後20年間で約2.5倍に増加することが見込まれ、LCCといった格安航空会社の台頭、平均運賃の低下が益々顕著になることが想定されます。こうした時代の動きは、「軽量化」による燃費向上や「高生産性」による機体価格の低減といった機体メーカーへの要求へとつながり、我々帝人グループとしても、そのニーズに応えるべく、従来からの軽くて強い炭素繊維「テナックス」の提供に加え、高生産性を実現する熱可塑プリプレグや織物基材といった中間材料への展開を精力的に図っているところであります。更に低価格材料の提供のみにとどまらず、材料、成形加工方法、開発・認定期間の短縮等のトータルコストダウンの提案は、我々ソリューションプロバイダーとしての使命であり、引き続き「航空宇宙」業界のQuality of Lifeの向上に貢献できるよう努めていく所存であります。技術の発展は一夜にしてなりません。「航空宇宙」業界をここまで育ててきたすべての先人達に敬意を表すると共に、これからの「航空宇宙」の未来を創るため、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。